

新成人のむし歯及び生活習慣の実態と課題

キーワード：むし歯 生活習慣 DMFT 実態調査 生活実態

高橋秀治¹⁾ 中尾裕之¹⁾ 森木大輔²⁾ 佐竹あすか²⁾

1) 宮崎県立看護大学 2) 宮崎県健康増進課

I. はじめに

「生涯にわたり自分の歯を20歯以上保ち、自分の歯でおいしく食事を楽しむ」という8020運動は、口腔保健の達成目標として展開されており、歯と口の健康が全身の健康と寿命に影響を及ぼすこともわかってきている¹⁾。宮崎県は全国と比べてむし歯が多く、一人あたりの歯の保有数も少ない。これは高齢者のQOLにも関与し、県民全体の健康づくりに大きく影響していると考えられる。そのため、県では平成13年度から公衆衛生的にむし歯予防効果の高いフッ化物洗口について県単独の補助制度を設置している。その制度を活用し、小学校においては平成16年度に、中学校においては平成20年度にフッ化物洗口が初めて開始された。フッ化物洗口は、4歳から14歳の間に実施することで、むし歯予防効果が高く期待される方法である。県内のフッ化物洗口の実施状況は24市町村470施設で、保育所から中学校までの平均実施率は49.0%(平成29年3月)である。また、永久歯の生え替わりの時期である学童期・思春期は、最もフッ化物洗口の効果が期待できる時期であるが、実施市町村は13市町村のみであり、まだまだ普及しているとは言えない。フッ化物洗口の効果については、他県では小中学校でのフッ化物洗口実施後、20歳、30歳になってもその効果が持続することが報告されている²⁾³⁾。県内では、徐々にむし歯予防効果は現れてきているものの、小中学校でのフッ化物洗口が始まってから、まだ期間が短いため、成人期のフッ化物洗口の効果に関する評価は行われていない。

そこで、成人期の歯科保健の現状を明らかにするため、まず成人期の初期にある新成人への歯科健診及び質問紙調査を実施し、むし歯の発生状況及び生活習慣との関連等を評価し、フッ化物洗口事業をさらに推進するための基礎資料とすることを目的とした。

II. 方法

1. 調査対象

宮崎県内市町村のうち協力が得られた自治体において平成28、29年度に20歳の誕生日を迎える者のうち、本調査の協力を得られた者を調査対象者とした。

2. 調査方法と内容

調査対象自治体の平成28、29年度の成人式において歯科健診及び質問紙調査を実施した。

1) 歯科健診

調査対象自治体の成人式会場に歯科健診会場を設置し、歯科健診を実施する。歯科健

診は宮崎県歯科医師会に委託実施し、歯科健診結果は、歯科健診票に歯科医師が記入する。

2) 質問紙調査

調査対象者に対して、歯科健診の会場で調査票を当日配布して無記名自記式で回答を求め、歯科健診と同時に実施した。

3) 歯科健診結果及び質問紙調査票の回収

歯科健診結果及び調査票は、歯科健診受診時にその場で配布・回収した。

3. データ収集項目

1) 歯科健診結果

健全歯、むし歯、修復歯、喪失歯などについてのデータ

2) 質問紙調査 (図 1)

- 口腔のセルフケア行動の有無とその頻度 (定期歯科健診の受診、デンタルフロス・デンタルリンスの使用、フッ素入り歯磨き剤の使用、歯磨き回数、むし歯予防意識)
- 食習慣に関する事項 (間食頻度、清涼飲料水頻度、食事回数)
- QOL 尺度 (GOHAI ; Geriatric Oral Health Assessment Index 口腔に関連した包括的な健康関連 QOL を測定する尺度) ⁴⁾

<div style="text-align: right; border: 1px solid black; width: 100px; margin: 0 auto; padding: 2px;">No.</div> <p style="text-align: center;">歯科健診アンケート</p> <p>性別：男・女</p> <p>職業：学生 (大学生・短大生・専門学校) ・会社員 ・自営業 ・公務員 ・専業主婦 ・アルバイト (パート) ・無職</p> <p>1. 通っていた保育機関及び教育機関について教えてください</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 15%;">名称</td> <td style="width: 20%;">() 保育所</td> <td style="width: 20%;">() 幼稚園</td> <td style="width: 20%;">() 小学校</td> <td style="width: 25%;">() 中学校</td> </tr> <tr> <td>フッ素洗口を行っていましたか?</td> <td>はい/いいえ</td> <td>はい/いいえ</td> <td>はい/いいえ</td> <td>はい/いいえ</td> </tr> <tr> <td>むし歯予防の授業を受けたことがありますか?</td> <td>はい/いいえ</td> <td>はい/いいえ</td> <td>はい/いいえ</td> <td>はい/いいえ</td> </tr> </table> <p>あてはまるものに○をしてください。</p> <p>2. 定期的に歯科での健診や歯石除去を受けていますか ①年1回未満 ②年1回 ③年1-2回 ④年3-4回</p> <p>3. デンタルフロスを使用しますか ①毎回使う ②時々使う ③全く使わない</p> <p>4. デンタルリンスを使用していますか ①毎回使う ②時々使う ③全く使わない</p> <p>5. 歯磨きをする際に、歯磨き剤 (フッ素入り) を使用していますか ①毎回使う ②時々使う ③全く使わない</p> <p>6. いつ歯磨きをしますか (あてはまるものにすべて○をしてください) ①起床後 ②朝食後 ③昼食後 ④朝食後 ⑤夕食後 ⑥就寝前</p> <p>7. 歯科矯正治療を受けたことがありますか ①はい ②いいえ</p> <p>8. オーラルケア (歯や口のケア) のどのくらい取り組みたいと考えていますか ①いつも念入りに行いたい ②どちらかといえば念入りに行いたい ③どちらかといえば手軽に行いたい ④手軽に行いたい</p>	名称	() 保育所	() 幼稚園	() 小学校	() 中学校	フッ素洗口を行っていましたか?	はい/いいえ	はい/いいえ	はい/いいえ	はい/いいえ	むし歯予防の授業を受けたことがありますか?	はい/いいえ	はい/いいえ	はい/いいえ	はい/いいえ	<p>9. むし歯は予防できると思いますか ①そう思う ②まあそう思う ③どちらともいえない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない</p> <p>10. 間食をしますか ①ほとんど毎日 ②週に4, 5日 ③週に2, 3日 ④週に1日以下 ⑤しない</p> <p>11. 砂糖の入っている飲み物をどれくらい飲みますか ①ほとんど毎日 ②週に4, 5日 ③週に2, 3日 ④週に1日以下 ⑤しない</p> <p>12. 1日に何回食事 (間食を含む) をとりますか ①1回 ②2回 ③3回 ④4回 ⑤5回 ⑥6回 ⑦7回以上</p> <p>13. 過去3ヵ月間に、どのくらいの頻度で次のようなことがありましたか。それぞれの質問 (1~12) について、もっとも近いと思われる番号 (1~5) に○をつけて下さい。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>いとも思わなかった</th> <th>よくあった</th> <th>時々あった</th> <th>めったになかった</th> <th>全くなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1) 口の中の調子が悪いせいで、食べ物の種類や食べる量を控えることがありましたか?</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>2) 食べ物をかみ切ったり、かんだしにくいことがありましたか? (例: かたい肉やりんごなど)</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>3) 食べ物や飲み物を、薬にすっと飲みこめないことがありましたか?</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>4) 口の中の調子のせいで、思い通りにしゃべれないことがありましたか?</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>5) 口の中の調子のせいで、薬に食べられないことがありましたか?</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>6) 口の中の調子のせいで、人とのかかわりを控えることがありましたか?</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>7) 口の中の見た目について、不満に思うことがありましたか?</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>8) 口や口のまわりの痛みや不快感のために、薬を使うことがありましたか?</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>9) 口の中の調子の悪さが、気になることがありましたか?</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>10) 口の中の調子が悪いせいで、人目を気にすることがありましたか?</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>11) 口の中の調子が悪いせいで、人前で落ち込んで食べられないことがありましたか?</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>12) 口の中で熱いものや冷たいものや甘いものがしみることはありましたか?</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> </tbody> </table> <p>ご協力ありがとうございました。</p>		いとも思わなかった	よくあった	時々あった	めったになかった	全くなかった	1) 口の中の調子が悪いせいで、食べ物の種類や食べる量を控えることがありましたか?	1	2	3	4	5	2) 食べ物をかみ切ったり、かんだしにくいことがありましたか? (例: かたい肉やりんごなど)	1	2	3	4	5	3) 食べ物や飲み物を、薬にすっと飲みこめないことがありましたか?	1	2	3	4	5	4) 口の中の調子のせいで、思い通りにしゃべれないことがありましたか?	1	2	3	4	5	5) 口の中の調子のせいで、薬に食べられないことがありましたか?	1	2	3	4	5	6) 口の中の調子のせいで、人とのかかわりを控えることがありましたか?	1	2	3	4	5	7) 口の中の見た目について、不満に思うことがありましたか?	1	2	3	4	5	8) 口や口のまわりの痛みや不快感のために、薬を使うことがありましたか?	1	2	3	4	5	9) 口の中の調子の悪さが、気になることがありましたか?	1	2	3	4	5	10) 口の中の調子が悪いせいで、人目を気にすることがありましたか?	1	2	3	4	5	11) 口の中の調子が悪いせいで、人前で落ち込んで食べられないことがありましたか?	1	2	3	4	5	12) 口の中で熱いものや冷たいものや甘いものがしみることはありましたか?	1	2	3	4	5
名称	() 保育所	() 幼稚園	() 小学校	() 中学校																																																																																										
フッ素洗口を行っていましたか?	はい/いいえ	はい/いいえ	はい/いいえ	はい/いいえ																																																																																										
むし歯予防の授業を受けたことがありますか?	はい/いいえ	はい/いいえ	はい/いいえ	はい/いいえ																																																																																										
	いとも思わなかった	よくあった	時々あった	めったになかった	全くなかった																																																																																									
1) 口の中の調子が悪いせいで、食べ物の種類や食べる量を控えることがありましたか?	1	2	3	4	5																																																																																									
2) 食べ物をかみ切ったり、かんだしにくいことがありましたか? (例: かたい肉やりんごなど)	1	2	3	4	5																																																																																									
3) 食べ物や飲み物を、薬にすっと飲みこめないことがありましたか?	1	2	3	4	5																																																																																									
4) 口の中の調子のせいで、思い通りにしゃべれないことがありましたか?	1	2	3	4	5																																																																																									
5) 口の中の調子のせいで、薬に食べられないことがありましたか?	1	2	3	4	5																																																																																									
6) 口の中の調子のせいで、人とのかかわりを控えることがありましたか?	1	2	3	4	5																																																																																									
7) 口の中の見た目について、不満に思うことがありましたか?	1	2	3	4	5																																																																																									
8) 口や口のまわりの痛みや不快感のために、薬を使うことがありましたか?	1	2	3	4	5																																																																																									
9) 口の中の調子の悪さが、気になることがありましたか?	1	2	3	4	5																																																																																									
10) 口の中の調子が悪いせいで、人目を気にすることがありましたか?	1	2	3	4	5																																																																																									
11) 口の中の調子が悪いせいで、人前で落ち込んで食べられないことがありましたか?	1	2	3	4	5																																																																																									
12) 口の中で熱いものや冷たいものや甘いものがしみることはありましたか?	1	2	3	4	5																																																																																									

図 1 質問紙

4. 分析方法

歯の本数、DMFT（一人平均むし歯経験歯数）など調査対象自治体ごとに集計し、むし歯の発生の多寡と質問紙調査により把握した口腔のセルフケア行動ならびに生活習慣との関連について、Spearman の相関分析を用いて検討した。統計的検定の有意水準は5%とした。なお、統計分析には統計ソフト SPSSver. 24.0 for Windows を用いた。

5. 倫理的配慮

研究の実施に当たっては、対象者に対して文書により調査の趣旨や研究への参加は自由意思であることなどを説明し、歯科健診の受診及び質問紙の提出をもって研究への参加の同意を得られたものとした。なお、本研究は宮崎県立看護大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。（承認番号：第3号、承認年月日：平成28年9月16日）

III. 結果

1. 歯科健診及び質問紙調査の実施状況

県内3市町の協力を得ることができ、2か年6日間で計258人の新成人の協力があつた。（表1、2）

表1 協力自治体の概要

	A町	B町	C市
人口	約15,000人	約5,000人	約400,000人
保育 教育機関	保育所6か所、幼稚園2か所 小学校5校、中学校2校	保育所2か所、幼稚園：3か所 小学校3校、中学校3校	保育所149か所、幼稚園75か所 小学校49校、中学校33校
その他の 特徴	高齢化率：約32% 町内歯科医療機関：3か所	高齢化率：約48% 町内歯科医療機関：3か所	高齢化率：約26% 市内歯科医療機関：235か所

表2 歯科健診及び質問紙調査実施結果

年度	市町村			計
	A町	B町	C市	
2016	50	42	14	106
2017	45	39	68	152
計	95	81	82	258

単位：人

2. 対象者の概要

対象者の性別で見ると、男性が140人、女性が102人でどの市町とも女性より男性の方が多かった。職業別で見ると、学生が118人（60.5%）と最も多く、次いで会社員49人（25.1%）、公務員11人（5.6%）であった。（表3）

表3 対象者の概要

性別		市町村			計
		A町	B町	C市	
1 男性		58	47	35	140
		37	34	31	102
2 女性		34	47	37	118
		58.6%	61.8%	60.7%	60.5%
3 学生		14	21	14	49
		24.1%	27.6%	23.0%	25.1%
4 会社員		2	2	0	4
		3.4%	2.6%	0.0%	2.1%
5 自営業		3	2	6	11
		5.2%	2.6%	9.8%	5.6%
6 公務員		1	0	0	1
		1.7%	0.0%	0.0%	0.5%
7 専業主婦		4	3	2	9
		6.9%	3.9%	3.3%	4.6%
8 アルバイト		0	1	2	3
		0.0%	1.3%	3.3%	1.5%

単位：人

3. 各項目の結果

1) 歯科健診

歯科健診の結果、対象者の未処置歯の平均値は 0.76 ± 1.604 、喪失歯の平均値は 0.02 ± 0.196 、処置歯の平均値は 1.62 ± 2.669 であった。また、それらの結果から DMFT（一人平均むし歯経験歯数）は、 2.4 ± 3.071 、現在歯数は平均値 28.60 ± 1.46 であった。（表 4）

表 4 歯科健診結果

		市町村			合計
		A 町	B 町	C 市	
D 未処置歯	平均値	0.71 ± 1.443	0.84 ± 1.699	0.74 ± 1.698	0.76 ± 1.604
	中央値	0	0	0	0
	最小値	0	0	0	0
	最大値	8	9	12	12
M 喪失歯	平均値	0.03 ± 0.228	0.04 ± 0.247	—	0.02 ± 0.196
	中央値	0	0	—	0
	最小値	0	0	—	0
	最大値	2	2	—	2
F 処置歯	平均値	1.96 ± 2.899	1.42 ± 2.296	1.41 ± 2.726	1.62 ± 2.669
	中央値	1	0	0	0
	最小値	0	0	0	0
	最大値	14	10	13	14
DMFT 一人平均むし歯 経験歯数	平均値	2.69 ± 3.196	2.30 ± 2.808	2.16 ± 3.18	2.4 ± 3.071
	中央値	2	1	1	1
	最小値	0	0	0	0
	最大値	14	12	15	15

2) オーラルケア、生活習慣、QOL と DMFT との関連

むし菌とオーラルケアへの取り組み状況や意識、生活習慣との関連を検討するため、DMFT とそれぞれの項目との関連性を検定した。DMFT とオーラルケアとの有意な関連性は認められなかったが、生活習慣に関しては、清涼飲料水の摂取頻度と食事回数との関連性が認められた ($p < 0.05$)。(表 5)

表 5 オーラルケア・生活習慣と DMFT との関連

		n	割合	相関係数	p
定期健診	1 年1回未満	175	68.4%	-0.001	0.988
	2 年1回	36	14.1%		
	3 年1-2回	23	9.0%		
	4 年3-4回	22	8.6%		
はみがき回数	1 1回	36	14.0%	-0.071	0.253
	2 2回	75	29.1%		
	3 3回	111	43.0%		
	4 4回	29	11.2%		
	5 5回	6	2.3%		
	6 6回	1	0.4%		
デンタルフロス使用	1 毎回使う	6	2.3%	-0.001	0.992
	2 時々使う	47	18.3%		
	3 全く使わない	204	79.4%		
デンタルリンス使用	1 毎回使う	6	2.3%	-0.001	0.981
	2 時々使う	47	18.2%		
	3 全く使わない	205	79.5%		
フッ素入り歯磨き剤使用	1 毎回使う	139	54.3%	-0.032	0.614
	2 時々使う	63	24.6%		
	3 全く使わない	54	21.1%		
歯科矯正治療歴	1 はい	39	15.1%	-0.063	0.312
	2 いいえ	219	84.9%		
オーラルケア取組意識	1 いつも念入りに行いたい	30	11.7%	0.019	0.759
	2 どちらかと言えば念入りに行いたい	71	27.6%		
	3 どちらかと言えば気軽に行いたい	60	23.3%		
	4 手軽に行いたい	96	37.4%		
むし菌予防意識	1 そう思う	145	57.3%	0.118	0.061
	2 まあそう思う	68	26.9%		
	3 どちらともいえない	32	12.6%		
	4 あまりそう思わない	6	2.4%		
	5 そう思わない	2	0.8%		
間食習慣	1 ほとんど毎日	68	27.0%	0.028	0.658
	2 週に4、5日	43	17.1%		
	3 週に2、3日	79	31.3%		
	4 週に1日以下	34	13.5%		
	5 しない	28	11.1%		
清涼飲料水摂取頻度	1 ほとんど毎日	50	19.8%	-0.124	0.049 *
	2 週に4、5日	41	16.3%		
	3 週に2、3日	96	38.1%		
	4 週に1日以下	51	20.2%		
	5 しない	14	5.6%		
食事回数	1 1回	16	6.3%	0.15	0.017 *
	2 2回	45	17.8%		
	3 3回	140	55.3%		
	4 4回	44	17.4%		
	5 5回	8	3.2%		
Q	20-29	1	0.4%	-0.018	0.778
O GOHAI	30-39	15	6.6%		
	40-49	38	16.6%		
L	50-60	175	76.4%		

※DMFT との相関について、Spearman の順位相関検定を行った。

有意水準を両側 5%未満とした。

IV. 考察

以上の結果より、新成人における歯科保健に関する課題について考察する。

1. 新成人の定期歯科健診・オーラルケアに関する課題

新成人のむし歯の発生状況を見ると、未処置歯の平均値は 0.76 ± 1.604 、喪失歯の平均値は 0.02 ± 0.196 、処置歯の平均値は 1.62 ± 2.669 であった。また、それらの結果から DMFT は、 2.4 ± 3.071 、現在歯数は平均値 28.60 ± 1.46 であった。全国や宮崎県と比べてみると、DMFT は全国 3.1 本 (15-24 歳)²⁾、宮崎県 6.3 本 (20-24 歳)⁵⁾ であり、今回調査対象者の方が低い結果であった。また、現在歯数は全国 28.7 本 (20-24 歳)、宮崎県 28.1 本 (20-24 歳) であり、同程度の状況であった。全国的にむし歯は減少傾向がみられるが、さらなるむし歯予防のために歯科保健活動の充実を図っていくことが必要である。成人期の歯科保健は歯科健診を中心に対策が進められており、その歯科健診については、大学などでは学校保健安全法に義務付けられた歯科健診がなく、労働安全衛生法についても特殊業務従事者への歯科健診のみであり、学生、労働者ともに歯科健診への対策は十分ではない現状がある。平成 28 年の歯科疾患実態調査²⁾ では、1 年間の歯科健診の受診状況は、定期歯科健診を受診している 20-29 歳の男性は 37.8%、女性 48.3% と低い現状があり、20 歳代の定期歯科健診の関心はその他の年齢と比べても特に低い。今回の歯科健診を受診し、調査票に回答した者の定期歯科健診受診率についても 31% と低い現状があった。今回の調査対象者である新成人の多くは学生であり、大学などは学校保健安全法に義務付けられた歯科健診や歯科保健指導がないことも、定期歯科健診が定着しない理由の一つとなっていると考える。大学生の定期歯科健診の未受診理由として「時間がない」「忙しい」「歯に異常や痛みがないから」「面倒だから」などが分かっている⁶⁾。また、定期歯科健診受診行動を支える要因として、「歯の健康に対する関心」が最も影響力が大きいとされており、定期歯科健診を受診している者の方がしていない者に比べて、口腔の健康に対する関心度が有意に高いことが明らかになっている⁵⁾。さらに、関心を高めるためには学校や地域における歯科保健教育の重要性が示唆されている⁷⁾。このことから、高校生までの学校保健のなかで、十分に歯の健康に対する関心が高まるように歯科保健活動を実施するとともに、それ以降でも大学や職場などを単位として歯科保健に関する関心が高まるように地域での歯科保健活動を充実していくことが重要であると考えられる。

また、オーラルケアへの取り組み状況として、デンタルフロスやデンタルリンスについて「毎回使用している」者の割合はいずれも 2.3% であった。平成 28 年の歯科疾患実態調査⁴⁾ では、歯と口の清掃状況は、デンタルフロスや歯間ブラシを使った歯と歯の間の清掃をしている 20-24 歳の男性は 17.8%、女性 22.9% という現状からみると本調査結果の方が低い状況であった。歯間部清掃器具の使用については、デンタルフロスなどを使用する意味や方法を学ぶ機会が学校や歯科医院でもなかったことが要因として考えられている⁸⁾。また、8020 を達成するためには、成人期以降はむし歯以外に歯周病への対策が重要であり、そのためにも歯だけでなく歯間や歯肉に対しても日頃からのセルフケアが重要であり、全身状態と合わせた歯科健診の実施が必要であると考えられる。

2. 新成人のむし歯に関連する生活習慣・QOLの課題

今回の調査では DMFT と生活習慣・QOL の関連性をみると、清涼飲料水の摂取と食事回数について有意な差が見られた。むし歯の発生要因は、「宿主と歯」「細菌」「基質」の主な3つがあり⁹⁾、それぞれに対応した予防が重要である。なかでも「基質」においては、糖質などを中心とした食事や間食の摂り方といった生活習慣の改善が重要である。成人期はライフイベントが多く、忙しさから生活習慣が不規則になり、自分の歯や口腔の健康を軽視する傾向にあるという特徴がある¹⁰⁾。特に大学進学や就職などで一人暮らしを始めた者も多い新成人においては、生活習慣が変化しやすい時期であると考えられる。不適切な生活習慣は、肥満や高血圧症、糖尿病など生活習慣病の発症に繋がり、これらの全身の健康は口腔の健康と密接に関連し、特に糖尿病を始めとする全身疾患が歯周病に影響を及ぼすことが以前より把握されていたが、歯周病が全身の健康状態に影響を与える、つまり歯周病そのものが糖尿病を悪化させる相互関係も明らかになってきている¹⁰⁾。このことから、特定健康診査・保健指導などを中心に進められている糖尿病等の生活習慣病予防対策であるが、歯と口腔の健康づくりを図っていくことは、糖尿病等の生活習慣病予防を実施する上でも重要であるといえる。また、今後親となる世代である新成人が健康的な生活習慣を身につけることで、その子どもや孫といった次の世代の生活習慣病予防へとつながっていくことが考えられる。このことから新成人本人の健康だけでなく、次の世代にまで影響することが考えられ、この時期に健康的な生活習慣を定着させていくことは効果的・効率的であると考えられる。そのため、新成人自らが生活習慣を見直し改善できるように意識づけを行うためにも、歯科健診の場が重要である。歯科健診を通して歯と口腔、全身の健康づくりを支援できるように、歯科保健活動を更に充実していくことが必要であると考えられる。

V. まとめ

今回の調査により、新成人のむし歯と生活習慣の実態から課題が明らかとなった。特にむし歯の本数は全国や県全体と比べて少ない状況があることや、むし歯の発生と清涼飲料水の摂取回数や食事回数との関連があることが明らかとなった。今後は、本調査結果を基礎資料として、更なる歯科保健対策の拡充及びフッ化物洗口事業の推進に向けて検討を深めていきたいと考える。

<研究の限界>

今回、新成人の歯科保健に関する実態を明らかにするため、新成人が集まる機会である成人式において歯科健診と質問紙調査を実施した。しかし、成人式は着物や袴など着用して正装をしている新成人が多いため、歯科健診受診の協力を得ることが難しく、特に女性の協力者が少ない状況にあった。そのため、研究結果の一般化には注意が必要である。

<謝辞>

調査にご協力をいただいた協力自治体の関係者の皆様、新成人の皆様ならびのその他の関係者のみなさまに心より御礼を申し上げます。

<引用文献>

- 1) 日本歯科医師会(2015):健康長寿社会に寄与する歯科医療・口腔保健のエビデンス 2015, 第1版, 6-11, 日本歯科医師会.
- 2) 岸洋志, 小林清吾(1992): 20歳成人の小児期齲蝕予防管理の成果, 口腔衛生学会雑誌 42(3), 359-370.
- 3) 大橋たみえ, 廣瀬晃子, 岩田幸子, 他(2015): 小学校の学校歯科保健活動におけるフッ化物洗口(250ppmF)終了後-20歳時点におけるう蝕抑制効果の検討-, 岐阜歯科学会雑誌, 42(1), 1-5.
- 4) Naito, M., Suzukamo, Y., Nakayama, T., et al.(2006): Linguistic adaptation and validation of the General Oral Health Assessment Index (GOHAI) in an elderly Japanese population, J Public Health Dent.66(4), 273-5.
- 5) 宮崎県健康増進課(2018年4月6日): 第2期宮崎県歯科保健推進計画, 宮崎県.
https://www.pref.miyazaki.lg.jp/kenkozoshin/kenko/hoken/documents/7097_20180404144500-1.pdf (参照2018年5月4日)
- 6) 守田紘子, 須田真理(2015): 非医療系大学生の定期歯科健診受診に関する意識調査, 日本歯科大学東京短期大学雑誌, 5(1), 68-73.
- 7) 笹原妃佐子, 河村誠, 清水由紀子(2004): 定期歯科健診への受診行動に影響する要因について, 口腔衛生学会雑誌, 54(3), 196-207.
- 8) 貴戸成美(2012): 大学生の歯科保健行動とブラッシング行動スキルとの関連性, 日本歯科大学東京短期大学雑誌, 2(1), 57-64.
- 9) 筒井昭仁, 八木稔(2015): 新フッ化物ではじめるむし歯予防, 第1版, 4-5, 医歯薬出版株式会社.
- 10) 大畑秀穂(2016): 歯科口腔保健の推進に向けてライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック, 第1版, 65-70, 医歯薬出版株式会社.